



小笠原での流行状況

第36週（9月2日から9月8日まで）

父島 COVID-19の報告がありました。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

東京都全体での流行状況

【主な感染症】

第35週（令和6年8月26日～9月1日）

インフルエンザ	
COVID-19	
咽頭結膜熱	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(増加)
感染性胃腸炎	(減少)
水痘	(減少)
手足口病	(増加)
伝染性紅斑	(増加)
突発性発しん	
ヘルパンギーナ	
百日咳	
風しん	—
流行性耳下腺炎	
RSウイルス	(増加)
流行性角結膜炎	
無菌性髄膜炎	(増加)
マイコプラズマ肺炎	(増加)
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	

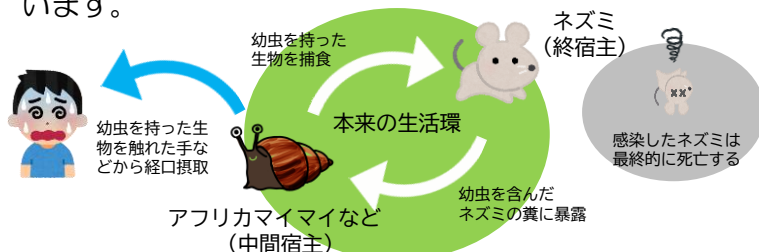
※ 赤字の感染症は警報または注意報レベルは報告なし、記載がないものは大きな変動がないことを表します。

感染症メモ

- 手足口病の定点当たり報告数は、6.04で警報レベルが続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、4.78で前週からほぼ横ばいです。
- マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、2.08で今後の動向に注意が必要です。

広東住血線虫症

広東住血線虫はネズミを終宿主とする寄生虫です。ネズミの体内で卵から孵化した幼虫は糞とともに体外に出て、中間宿主となるカタツムリやナメクジの体内に入ります。通常はこの中間宿主をネズミが捕食することで生活環が成立しますが、ヒトの体内に幼虫が入ると虫体が脳内などの中枢神経系に移行することで好酸球性髄膜炎などを引き起こし、最悪死に至ることがあります。日本では沖縄県での発生が多く、2000年には3か月という短期間に8例発生するという事案があり、同年には国内で初めての死亡例も確認されています。



中間宿主としてはアフリカマイマイが有名ですが、広東住血線虫に感染しているネズミの糞に暴露した可能性のある幅広い生き物が中間宿主となる可能性があります。小笠原では陸生のカタツムリやカニ、オオヒキガエル、ゴキブリ、トカゲ、淡水のエビ、ニューギニアヤリガタリクウズムシなどがこれに該当します。不必要に恐れる必要は全くありませんが、これらの生物に触った場合はすぐに良く手を洗いましょう。また、これらの生物が触れた可能性のある生野菜なども食べる前にしっかり洗ってください。また、島で捕獲したエビやカニを食べる場合はしっかりと加熱をしましょう。

触ったら手を洗おう



参考、出典：東京都保健医療局HP 国立感染症研究所HP 沖縄県HP 身近な人畜共通寄生虫症-広東住血線虫- 日獣会誌2013

